

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 6 部門第 1 区分  
 【発行日】平成 19 年 2 月 15 日 (2007.2.15)

【公開番号】特開 2002-31688 (P2002-31688A)  
 【公開日】平成 14 年 1 月 31 日 (2002.1.31)  
 【出願番号】特願 2001-14051 (P2001-14051)  
 【国際特許分類】

**G 0 1 T 3/00 (2006.01)**

**G 0 1 T 1/18 (2006.01)**

【F I】

G 0 1 T 3/00 E

G 0 1 T 3/00 A

G 0 1 T 1/18 E

G 0 1 T 1/18 A

【手続補正書】  
 【提出日】平成 18 年 12 月 27 日 (2006.12.27)  
 【手続補正 1】  
 【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】0 0 1 8  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【0 0 1 8】

図 2 に示すように、線電流特性は、印加電圧が 0 V から 4 0 V ~ 6 0 V 付近までは線電流値 ( I ) が急激に増加してから緩やかな増加傾向を示している。とくに、印加電圧が 0 V から 4 0 V 付近までのこのような特性は、印加電圧が低いほど線による電離イオンや電子を陽極および陰極に十分捕捉できないためであると考えられる。

【手続補正 2】  
 【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】0 0 3 5  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【0 0 3 5】

また、核分裂物質には U - 2 3 5、P u - 2 3 9 等がある。これらは線崩壊核種で、半減期が異なり物質質量に対する線放出量が相違する。これらの物質には、不純物元素や同位体元素も含まれ、中性子検出器を製作する核分裂物質のロットが相違すると、核分裂電離箱の真の線電流値すなわち外挿 0 V 線電流値 ( I 0 ) と中性子感度との相関関係も相違する。